

答 申 書

平成13年11月12日

(社)日本アマチュア無線連盟
会長 原 昌 三 殿

(社)日本アマチュア無線連盟
コンテスト委員会 委員長 坂井 紀久男

コンテスト規約の一部改正などについて

1997年(平9)年11月の理事会で承認され翌'98年4月のALL JAコンテストから実施されている現行コンテスト規約について、今回、JARL NEWS 8月号に改正素案を提示して会員の意見を求めながら審議した結果、下記のとおりコンテスト規約の一部改正などを行いたく、答申いたします。改正規約については別紙の新旧対照表を参照してください。

なお、本改正案の実施時期については、2002年度のALL JAからを予定しています。
記

．コンテスト規約の一部改正について

1．今までの経緯

1998年(平10)にJARL主催の4国内コンテストを大幅に規約改正し3年あまりが経過しました。その間、新規約について意見や要望などをいただきましたが、当委員会としては3年の実績を見た後に再検討したい、と回答してきました。

新規約のもと3年経った今夏、JARL NEWS 8月号誌上で「国内コンテスト規約改正について みなさんのご意見をお寄せ下さい」として、委員会の素案を発表、会員の意見を募りました。それに応じて58名の方々から種々の意見が寄せられました。それらを取りまとめ検討した結果、次の点について見直ししたいと考えます。

2．改正点など

(1) 電話部門の新設：

誰もがほぼ同じ条件で参加できる部門として電話部門の新設を提示します。参加できる人はもちろん4アマに限定しませんが、出力は4アマ資格相当とし、14MHz帯を対象外にしています。

新設する理由は、従来の電信電話部門が4アマの参加者にとっては電信による「マルチ稼ぎ」ができないため、電信運用ができる参加者に比べ同じ土俵の上の勝負ではない場合があったことが最大です。これで、国内で多数を占める4アマの資格者にとって楽しさが増すものと思います。

なお、この部門はALL JAでは全種目に、全市全郡では50MHz帯以下とマルチバンド種目に、6m&Downとフィールドデーではマルチバンド種目のみに限定して設置

します。逆に、この部門とほとんどが重なる現行の電信電話部門の電力別のL種目は廃止します。また、ニューカマー種目は、電話部門に包含してその中で表彰します。

(2) 電力区分の見直しとQ R P種目の拡大推奨：

従来の電力別区分（下表の現行規約の列に示す）では参加局数に粗密が生じていることや電力比率が合理的でない面があるため、下表の改正案のように見直すことにしました。

この電力別区分は、コンテストナンバーの交換時だけでなく、種目別の基準にもなります。P区分については従来のL種目をP種目にすべて移行させていますので、これまで任意の2バンドに限っていたQ R P種目を拡大したとも言えます。

電力別コード	改正案	現行規約
H	1 0 0 W超	2 0 0 W超
M	1 0 W(2 0 W)を越え1 0 0 W以下	1 0 W(2 0 W)を越え2 0 0 W以下
L	5 Wを越え1 0 W(2 0 W)以下	5 Wを越え1 0 W(2 0 W)以下
P	5 W以下	5 W以下

注：()内は 5 0 M H z 帯以上の場合

なお、コンテストナンバーにおける電力表記と電力別種目コードとの関係は、H H、M & L M、P Pとなっています。

L区分については電話部門だけに残ることになり、改正案では削除されます。Q R PになるP区分では、1 W以下にという要望もありましたが、機器の操作により電力を容易に減らせることができる点や世界的なQ R P定義に従い、5 Wの現行出力を維持しました。

(3) 表彰基準

従来から参加局数に応じて3 0局以下の場合1位、3 1局以上の場合3位まで、と表彰してきましたが、これでは参加局数が多い種目では表彰基準が厳しくなりがちなこと、また一方では「棚ボタ」的な表彰を避けトータル的に全参加局の1 0%が表彰されるようにと、種目別参加局数の上位1 0%に入る方で最大7位までを表彰することにしました。

ただし、エリアトップの表彰は上位5 0%に入っていないとしないという現行の規定から、今回の改定により上位2 5%以内に入っていることと、基準を引き上げました。

同時に、電力別に分かれた種目では全体を総得点順に並べたなかで、H M P全体での上位1 0%を表彰、さらにM P全体での上位1 0%を表彰、最後にPだけでの上位1 0%を表彰する、こととしました。その結果、書類を出す種目による運・不運や不公平感がなくなります。

賞状の記載方法では、例えば電力Mクラスの人がHクラスを含めた全体で1位になった場合は、当然Mクラスでも1位になります。その場合賞状にはその旨を併記することとします。

従前から一定の要望があったV・UHF帯における全国表彰については、5 0～4 3 0 M H z 帯種目において全国1～3位までを表彰するように復活させます。

(4) SWL、ジュニア

これら二つの種目については、電信部門での参加が非常に少ないことから、電信電話部門のみに包含して残すこととしました。

(5) ハーフタイム、限定マルチバンド、シルバー

これらの種目についても、賛否様々な意見をいただき検討しましたが、今回は現状のままで見守り引き続き検討課題とするという結論になりました。

・コンテスト活性化策について

以上現行規約の見直しについて委員会としての意見を述べました。もちろん、規約の見直し=コンテストの楽しさの増加、につながると考えていますが、一方では、今回寄せていただいた意見の中で触れている方もいたとおり、コンテスト自体の活性化の手だてを考えることも重要な施策です。

そこで、本委員会としては次のような参加者促進を狙ったプロモーションを提案します。なお、いずれも運営実務に関してはボランティアによる作業を想定しています。

1. ドナー制度の導入

コンテストにおけるドナー制度とは、その意志のある方が賞状や盾の費用を個人負担することにより、コンテスト規約では表彰されない対象者（例えば府県1位）、もしくは活性化させたい部門の入賞者に対し副賞として盾を贈呈するなど、JARLが別途表彰を行うものです。

たとえば、個人、クラブ、あるいは企業などがこの部門のこの種目で1位になった局に盾を贈呈したいと思った場合に事前にJARLに必要なドネーションを行ない、JARLは事前にその旨規約発表時に公開しておきます。

2. コンテストアワードの発行

コンテスト中におけるQSOでアワード要件を達成した場合に、簡易な申込みでアワードが発行されるようにします。これに使用されるアワード用紙は、（通常のアワード申請ではないため）コンテスト賞状用紙にプリントアウトします。

アワード要件については、アワード規約にあるものの他に、各コンテストに合わせた独自なもの申請できるようにあらかじめリストアップしておきます。（例：AJD、WAJA、500QSO、1000QSO、200マルチ達成など）

なお、外国のコンテストなどでは、主催者が同様な参加賞+達成証のような形のものを無償で発行しているケースもありますが、今回提示するものは有料のものになります。

以上

[コンテスト委員会の構成]	委員長	JA3ATJ	坂井紀久男			
	委員	JF1SQC	森川晴一郎	JN2MRJ	間野 裕一	
			JK1JHU	青木 豊	J13ERV	安芸 年信
			JR1LQK	土屋 勝	JN3DRB	辻 正道